

第2回（仮称）吹田市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議  
開催結果概要

<b>1 日時・場所</b>	
平成27年9月10日（木）18:00～20:00 ・ 特別会議室	
<b>2 出席者</b>	
<p>【委員】 吉野委員長、益原副委員長、寺本委員、高木委員、北委員、水上委員、西村委員</p> <p>【事務局】 春藤部長、美馬次長、井尻次長、中嶋室長、北澤参事、堀主幹、中谷主査、守屋主任、船越係員、中嶋係員</p>	
<b>3 案件内容</b>	
<p>(1) 「(仮称)吹田市人口ビジョン(案)」及び「(仮称)吹田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要について</p> <p>(2) 総合戦略等の策定に関するご意見・ご質問について</p>	
<b>4 主な質疑・意見等の内容</b>	
<b>【基本目標① 地域経済の活性化（仮）】</b>	
水上委員	面白い「サービス」をふるさと納税の特典とすることで吹田を知ってもらうことが地域経済の活性化につながるのではないかと。
高木委員	健都においても積極的に企業誘致を行い、医療機関のみでは実現できない医療の活性化を目指すべき。健都のみならず、企業誘致の構想を作ってみせることが必要。
益原委員	子育て支援、高齢者、障がい者をサポートするNPO法人に対するソーシャルビジネス支援により、行政に過度に頼らず、できることは民間企業が担うことで地域の活性化を実現させる流れを行政が作る必要がある。
<b>【基本目標② 都市魅力・定住魅力の強化（仮）】</b>	
西村委員	「関西であれば吹田に定住したい」と思う人がどれくらいいるのかという視点はアクションプランを提案する上で重要なポイントとなる。また、吹田、豊中、高槻の祭りを取材する中で、ふるさとのイベントとして年に1回参加したいというのが吹田にないのが現状だと感じた。吹田は良く言えばバランスが取れている、悪く言えば中途半端というのが吹田のイメージとなっていることから、アクションプランの中には地域に密着した新しい文化を創造してほしいという思いがある。
益原委員	ガンバ大阪を活用してまちの賑わいを創るべき。 大学研究機関があるまちの強みを活かした魅力づくりという点では、起業教育を連携して行うことで起業率のアップにつなげていく取組も必要。
<b>【基本目標③ 就職・出産・子育ての希望をかなえる（仮）】</b>	
吉野委員長	市内中小企業のインターンシップ制度の流れを作るなど、大学や個々の企業ではできない道筋をつくるのが行政の役割ではないかと。
寺本委員	ベッドタウンという土壌を活かして子育てしやすいまちとしてもう一度突出してアピールすることが現実的。ネウボラは基本的に全妊婦への面談としており、KPI

	にあるニーズの高い妊産婦への支援の全数実施はどこでもやっていることであり、吹田版ネウボラとしてはあまりに低い目標である。
<b>【基本目標④ 人口減少・超高齢社会においても持続可能なまちづくり（仮）】</b>	
高木委員	健康寿命の延伸という目標を具体的に進めて、吹田に住んだら高齢になっても自宅で住める、安心して両親を呼べると思えるまちづくりをしてはどうか。
北委員	認知症サポーターを組織化してまちとして支える取組から在宅医療につなげられるのではないかと。